

高島市新ごみ
処理施設建設
特別委員会

委員長 早川 浩徳

新ごみ処理施設整備に関する説明を受けました。

令和5年9月12日(火)に高島市新ごみ処理施設特別委員会を開催しました。

委員会では、令和5年度第2回高島市新ごみ処理施設建設検討委員会で報告される周辺地域からの意見書への対応状況の他、新ごみ処理施設整備の事業方式や施設発注方式、施設配置計画等の審議内容について執行部から説明を受けました。

また、施設の整備・運営に伴い隣接する周辺地域における地域振興策の基本方針についても説明を受けました。

7/11・12

文教福祉常任委員会 行政視察報告

岡山県勝田郡奈義町において、「子育て支援の取り組み」について、行政視察調査を行いました。

奈義町は、全国で市町村合併が進む中、平成14年に住民投票を行い、合併しないことを決定されました。平成24年には「子育て応援宣言」を行い、子育て支援施策の充実に努められ、令和元年には合計特殊出生率2.95を記録し、「奇跡のまち」と称されています。

奈義町では、町の存続のための最大の課題を「人口減少」と捉えられ、人口を維持するために住民と一緒に考えることを重視し、町民アンケートの要望を取り入れた施策が実施されています。若い世代の方を中心に人口が減少すると、サービスの衰退、商店やスーパー、病院等も減っていき、交通機関も充実できなくなることが予想されます。これは高齢者世代の生活にも大きく影響することから、子育て支援は若者だけのものではなく、全世代にも有益なものだということから、「少子化対策は、最大の高齢者福祉」という考えのもと、住宅の確保、仕事のマッチング、子どもを町民同士で見守る仕組み作り、経済的支援、企業誘致と、多岐にわたる支援策が講じられていました。

経済的支援が充実していても、それだけではなかなか出産を考えられないが、地域に応援してもらっている、何かの時には預かってもらえるという安心感があると、子どもを出産してもなんとかやっていけそうと思えるとの声もあり、行政と住民と一緒に考え相談し、一緒に取り組むことで、地域に実情に合ったきめ細やかな対応が可能になると感じました。

高島市においても、さまざまな子育て支援策が講じられているところですが、視察で学んだことを参考に、今以上に安心感を持って子育てできるまちとなるよう働きかけていきたいと考えます。



その他の視察先：広島県福山市「校内フリースクールの取り組みについて」